

インドネシア雑感（3）

インドネシアの貨幣単位はルピア。日本円の1円が約100ルピアです。両替すると、急に大金持ちになった錯覚をもつ。昼食で地元の店で1皿、2皿と注文するが、支払いは4～5万ルピア。万の単位を耳にすると、大きな金額が頭を過ぎるが、円換算して見ると4～5百円である。帰国の日に、換金したルピアが偶々1万札で10万ほど残っていた。日本に持って帰っても、ただの紙切れでしかない。

出国時、空港での荷物、持ち物検査での出来事である。順番に検査台に荷物を載せ、検査される。または人は金属探知機の前をくぐり抜けての検査である。同じ飛行機で帰国する我々4名の順番が来て、一人目は素直にチェックが終わる。4名一行の中で私が親分に見えたのであろうか？二番目の私の番になると、突然、検査員の一人がチップチップと声をかけ、手を出してきた。インドネシアのガイド本には、インドネシアではホテルを含めてチップは不要との記載があったので、ホテルでもチップなしで過ごしてきた。一瞬、此奴は何を要求しているのか？と戸惑った。“たかり？”か、と思いつつも、検査でいらぬケチをつけられてもつまらぬと思い、1万ルピア札を渡した。すると、“4名分だ”と追加要求である。残り3名で3万を渡した。我々にすれば、約400円であるが、彼らには十分な金額であったようだ。私を含め、残り2名も検査をするが、フリーパスとなり、追い出されるように通過した。5千ルピアでも良かったのかな？と、ケチなことがフト頭も過ぎる。でも良く考えて見ると、飛行機搭乗前のセキュリティがフリーパスとも思える。我々4名がよほどの紳士？に見えたからかも知れない。



の私の番になると、突然、検査員の一人がチップチップと声をかけ、手を出してきた。インドネシアのガイド本には、インドネシアではホテルを含めてチップは不要との記載があったので、ホテルでもチップなしで過ごしてきた。一瞬、此奴は何を要求しているのか？と戸惑った。“たかり？”か、と思いつつも、検査でいらぬケチをつけられてもつまらぬと思い、1万ルピア札を渡した。すると、“4名分だ”と追加要求である。残り3名で3万を渡した。我々にすれば、約400円であるが、彼らには十分な金額であったようだ。私を含め、残り2名も検査をするが、フリーパスとなり、追い出されるように通過した。5千ルピアでも良かったのかな？と、ケチなことがフト頭も過ぎる。でも良く考えて見ると、飛行機搭乗前のセキュリティがフリーパスとも思える。我々4名がよほどの紳士？に見えたからかも知れない。

次に海外出張者に対する保険の保証条件について紹介しよう。以下のようなケースで、海外旅行保険はどこまで対処ができるのか？

今回、プロジェクトを共同推進するインドネシア地方政府の方の好意で、会議後ホテルまで車に乗せてもらうことになった。車に乗ろうとした時、突然車が急発進し、飛び降りせざる状況に陥った。その際、転げ落ち、あわや大けがを免れたが、ズボンを破ってしまった。親切にもホテルまで送ろうと車を出したインドネシア地方政府の方に過失がある。病院に行かねばならないような事態なら別であったが、ズボンを破り、擦りむいた程度である。

このケースは“保険の対象にならない”という。交通事故の場合、保証対象となるは、公共交通機関での事故、あるいは事故を起こした車が逃げた相手不明な事故である。今回のように相手が分かっている場合は、その加害者が責任を取るのが原則で、保険の対象外という。では、加害者から賠償してもらえるだろうか？今回の場合、加害者はプロジェクトを共同推進する地方政府の職員である。損害は日本からみれば高額ではないが、新興国の政府職員である彼ら彼女らから見れば負担は大きいと予想される。たまたま軽傷

ゆえに保険のルールで賠償請求することは実際にできるであろうか？悩ましい。

ビジネスで新興国に出張する場合、出迎えや移動で相手側の好意にすぎることが多いのではないだろうか？大きな事故でも起きたらどうなるのか？このリスクに対して、一度、再チェックを！！

インドネシア雑感は今回で終了です。3回にわたる閲覧、有り難うございました。

(A.O)